

# 近世民家の集成（1）

近世プロジェクトチーム

## はじめに

当プロジェクトチームでは、1993年の結成以来、考古学の本道ともいえる住まいの研究をテーマとすることが常に話題に上ったが、資料的に制約もあり、これまで時期尚早として見送ってきたところである。しかしながら、一昨年の県内近世遺跡の再集成により、資料的に十分とはいえないものの、近年、数多くの報告のなされていることが明らかになり、ここで集成しておくことも意義のあることと考え、ここに長期的な展望の上に立って実行することとした。

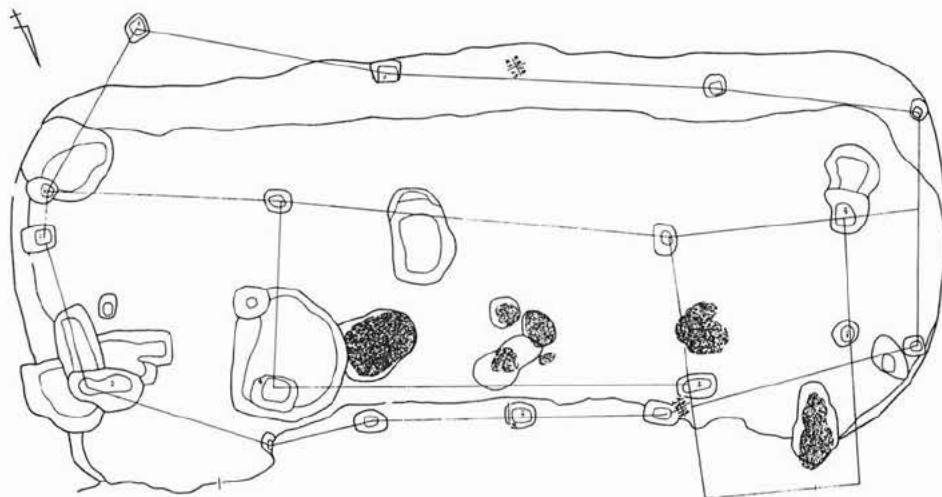
県下における近世の建築遺構としては、城郭・陣屋・軍事施設・寺院・神社・武家屋敷・町屋・民家などがあげられるが、これらの中で圧倒的多数を占めるのは、いうまでもなく一般農民層の住まいである民家である。近世民家については、これまで建築史学に負うところが大で、近世民家=石場建て(礎石建ち)と考える向きがあったが、考古学的な発掘調査により、近世民家=掘立柱建物址であることはすでに常識となっている。したがって、今回の集成も掘立柱建物址が中心となるが、掘立柱建物址から石場建てへの転換も踏まえ、それらについても集成する予定である。また民家といえば、母屋だけが想起されるが、屋敷を構成する建物としては、それ以外に納屋(物置)や厩、肥料小屋(灰屋)・廁などの付属建物があり、これらについても併せて集成する。というのも、将来的には屋敷址としての分析を視点においているからであるが、現段階では、建物の規模だけで母屋などの付属建物か判断しかねるものが多く存するからである。

集成に当たっては、『かながわの考古学』第5集および同書「研究紀要7」の検出遺構欄にある建築遺構を当たることとし、今回は横浜市・川崎市・横須賀市・平塚市・鎌倉市の5市を対象とした。これらのうち、平塚市原口遺跡のように近世の屋敷址の報告がなされているものの、個々の建物の全容が不明なため、集成の対象から除外したものもある。また報告書によっては、建物の復元図が示されず、規模の不明なものが多くみられたが、これらについては、プロジェクト構成メンバーによる検討により、復元案を提示することとした。さらに、各報告書の復元案を尊重しつつも、メンバーにより別案が想定されたものについては、それを掲載したものもある。もっとも、近世民家の研究の根底に潜む限界は、建築学に門外漢の我々が地下の痕跡から上屋を推定復元するという無謀な挑戦から始まっているわけで、この集成を通して、建物復元基準を明確化することも使命としておきたい。

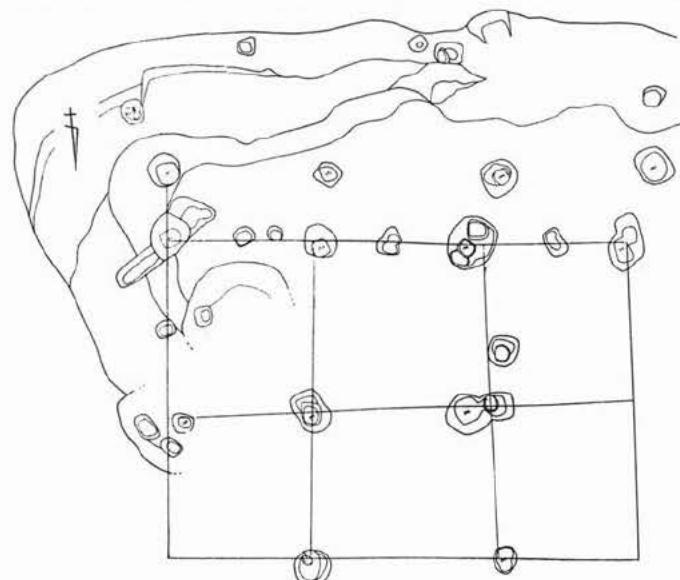
## 凡 例

- ・建物の縮尺は原則として1/100とし、スケールを省略したが、規模の大きいものについてはシートに収まるよう、適宜縮尺を変え、図面ごとにスケールを提示した。
- ・梁間、桁行の間数は単に柱穴間の数ではなく、柱間距離から概略割り出した1間の梁間及び桁行寸法で換算した数値を示している。
- 坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪3.3m<sup>2</sup>で除したものである。
- ・建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

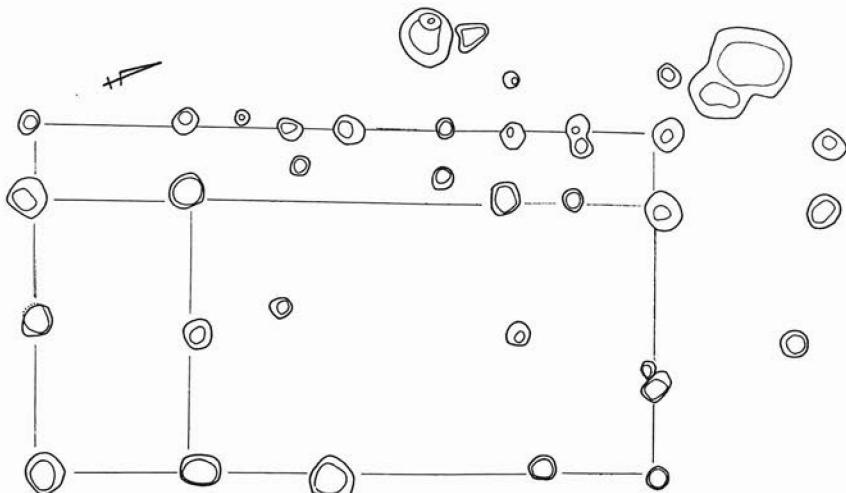
資料No	1	遺跡名	東耕地遺跡					所在地	横浜市緑区東本郷町	
遺構名	近世建築遺構上面			構築場所	神社跡前面の緩斜面					
規模	梁間	m	桁行	m	×	間	面積	m <sup>2</sup>	坪数	坪
柱穴の形状	方形・不整形	柱間距離	梁	m	桁	m	主軸方位	N-25°-W		
出土遺物	土器・陶磁器・鉄釘・煙管・錢貨・火打石			付属施設	炉址4・土坑2					
建物の機能	神社創建に関わる工房か			構築時期	宝永火山灰降下以前					
備考	隅円長方形の堅穴内に構築									



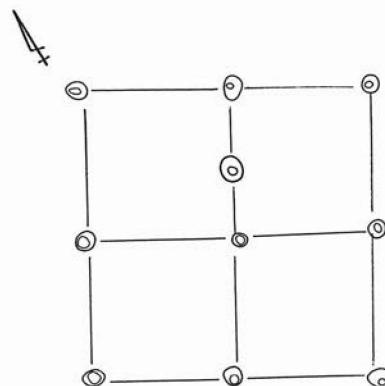
資料No	2	遺跡名	東耕地遺跡					所在地	横浜市緑区東本郷町	
遺構名	近世建築遺構上面			構築場所	段切り造成面					
規模	梁間	4.2 m	桁行	6.2 m	2	×	3 間	面積	26.0 m <sup>2</sup>	坪数
柱穴の形状	方形・不整形	柱間距離	梁	2.1 m	桁	2.0~2.5 m	主軸方位	N-60°-W		
出土遺物				付属施設	南面に庇					
建物の機能				構築時期	16世紀か					
備考	資料No 1 の下面で検出されており、何らかの関係があると推定。									



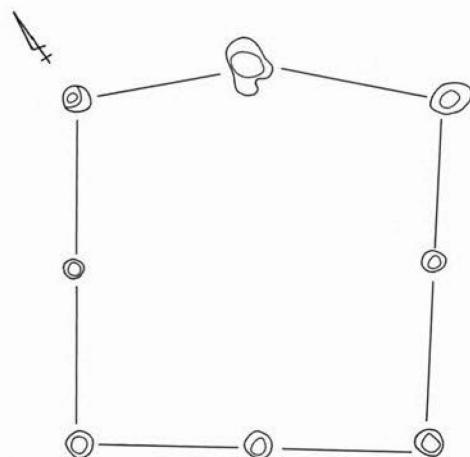
資料No.	3	遺跡名	熊ヶ谷遺跡					所在地	横浜市青葉区奈良町			
遺構名	掘立柱建物址			構築場所	尾根斜面部を段切り造成							
規模	梁間	3.7 m	桁行	8.4 m	2 × 4 間	面積	31.1 m <sup>2</sup>	坪数	9.4 坪			
柱穴の形状	円形・楕円形		柱間距離	梁	1.6~2.0 m	桁	2.1~2.2 m	主軸方位	N-30°-E			
出土遺物						付属施設	西面に庇					
建物の機能	母屋					構築時期						
備考	報告では2.5×5間(4.7×10.6m)。											



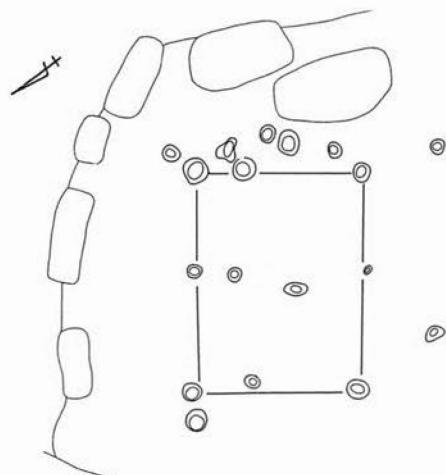
資料No.	4	遺跡名	受地だいやま遺跡					所在地	横浜市青葉区奈良町			
遺構名	第25号掘立柱建物址			構築場所	台地縁辺部緩斜面							
規模	梁間	3.85 m	桁行	3.85 m	2 × 2 間	面積	14.8 m <sup>2</sup>	坪数	4.5 坪			
柱穴の形状	楕円形		柱間距離	梁	1.8~2.0 m	桁	1.9~2.1 m	主軸方位	N-60°-W			
出土遺物	志野丸皿					付属施設						
建物の機能	納屋的な倉庫施設もしくは堂舎					構築時期	17世紀前半					
備考	総柱式建物。資料No 5と一対で機能。											



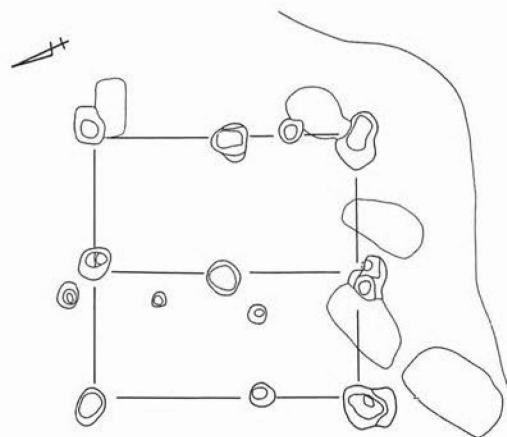
資料No	5	遺跡名	受地だいやま遺跡				所在地	横浜市青葉区奈良町			
遺構名	第26号掘立柱建物址			構築場所	台地縁辺部緩斜面						
規模	梁間	4.55 m	桁行	4.8 m	2 × 2間	面積	21.8 m <sup>2</sup>	坪数	6.6 坪		
柱穴の形状	楕円形	柱間距離	梁	2.1~2.4 m	桁	2.2~2.6 m	主軸方位	N-60°-W			
出土遺物	母屋もしくは庫裏			付属施設							
建物の機能	母屋もしくは庫裏			構築時期	17世紀前半						
備考	資料No4と一対で機能。										



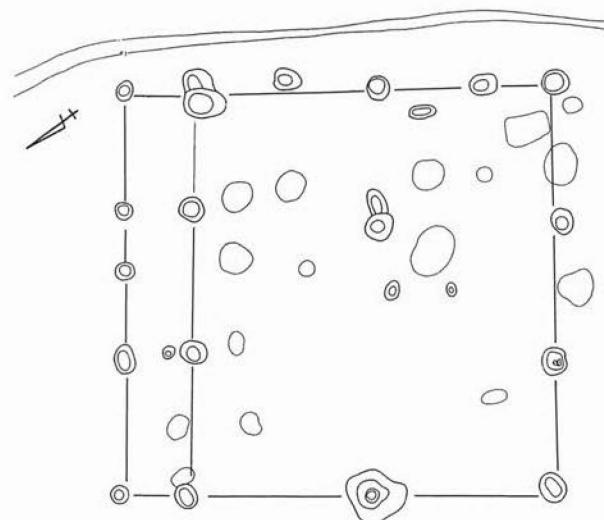
資料No	6	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町			
遺構名	1号段切掘立柱建物K1			構築場所	南北に走るやせ尾根の西斜面を段切り造成						
規模	梁間	2.2 m	桁行	2.7 m	1 × 2間	面積	5.9 m <sup>2</sup>	坪数	1.8 坪		
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	2.2 m	桁	1.3~1.6 m	主軸方位	N-53°-W			
出土遺物	段切りより陶磁器碗・皿・仏飯碗			付属施設							
建物の機能	付属建物			構築時期							
備考	報告では1×2間(1.5×2.7m)北面に庇としている。										



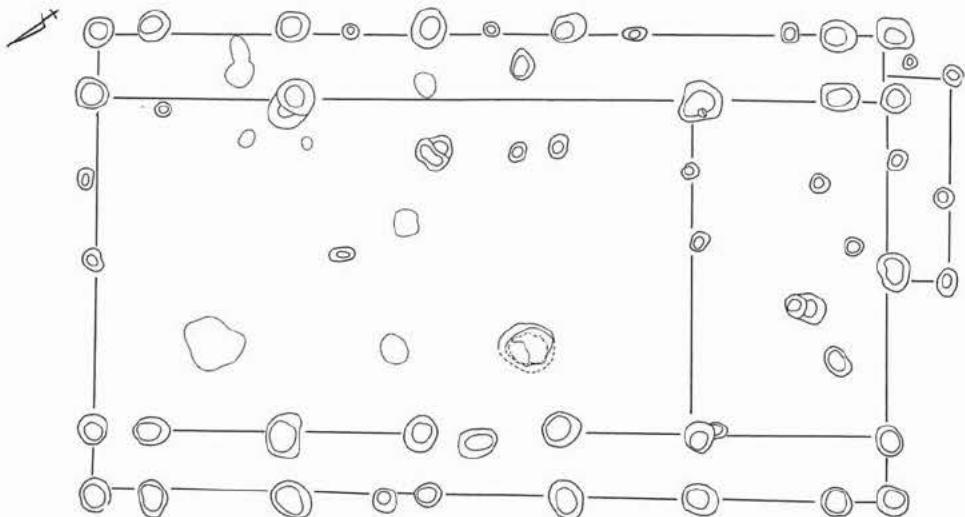
資料No.	7	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町		
遺構名	1号段切 挖立柱建物 K2			構築場所	資料No.6に同じ					
規模	梁間	3.6 m	桁行	3.7 m	2 × 2 間	面積	13.3 m <sup>2</sup>	坪数	4.0 坪	
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.6~2.1 m	主軸方位	N-71°-W		
出土遺物	資料No.6に同じ				付属施設					
建物の機能	付属建物				構築時期					
備考	縦柱式建物。									



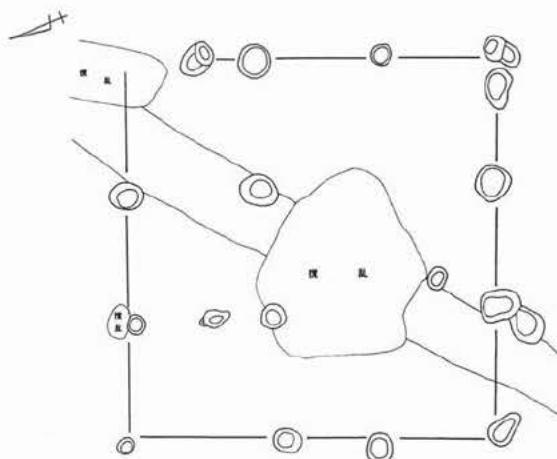
資料No.	8	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町		
遺構名	1号段切 挖立柱建物 K3			構築場所	資料No.6に同じ					
規模	梁間	4.8 m	桁行	5.1 m	2 × 3 間	面積	24.5 m <sup>2</sup>	坪数	7.4 坪	
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	2.4 m	桁	1.7~1.9 m	主軸方位	N-53°-W		
出土遺物	資料No.6に同じ				付属施設	北面に庇				
建物の機能					構築時期					
備考										



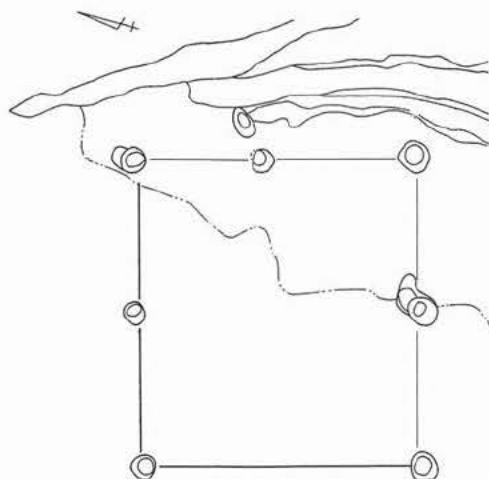
資料No.	9	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町					
遺構名	1号段切 挖立柱建物K4			構築場所	資料No.6に同じ								
規模	梁間	4.5 m	桁行	10.7 m	2 × 5間	面積	48.2 m <sup>2</sup>	坪数	14.6坪				
柱穴の形状	楕円形		柱間距離	梁	2.2~2.3 m	桁	1.8~2.6 m	主軸方位	N-31°-E				
出土遺物	資料No.6に同じ				付属施設								
建物の機能	母屋			構築時期									
備考	報告では5×7間(6.0×10.4m)の総柱としている。												



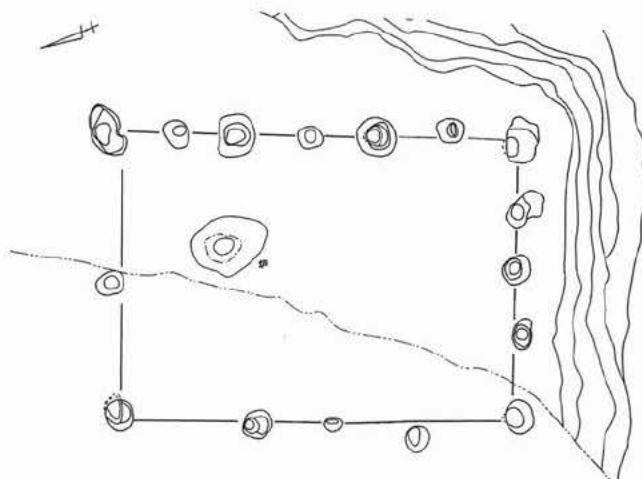
資料No.	10	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町					
遺構名	1号段切 挖立柱建物K5			構築場所	資料No.6に同じ								
規模	梁間	5.0 m	桁行	5.0 m	3 × 3間	面積	25.0 m <sup>2</sup>	坪数	7.6坪				
柱穴の形状	円形・楕円形		柱間距離	梁	1.5~2.2 m	桁	1.6 m	主軸方位	N-74°-W				
出土遺物	資料No.6に同じ				付属施設	北面に庇							
建物の機能	付属建物			構築時期									
備考	報告では総柱である。 建物内の柱配置から2×3間が本体で北側に1間の庇が附いたものとも考えられる。												



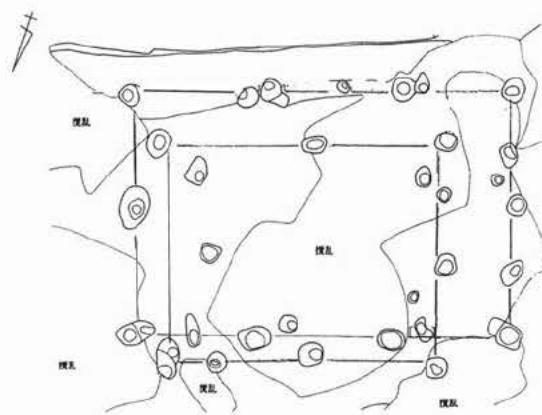
資料No	11	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町		
遺構名	2号段切 挖立柱建物K6			構築場所	1号段切りの南に位置する高所の段切り造成面					
規模	梁間	3.7 m	桁行	4.1 m	2 × 2間	面積	15.2 m <sup>2</sup>	坪数	4.6坪	
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	1.7~2.0 m	桁	2.0~2.1 m	主軸方位	N-72°-E		
出土遺物	段切りより染付碗・陶器鉢・片口・砥石				付属施設					
建物の機能	付属建物				構築時期	宝永火山灰降下前後				
備考										



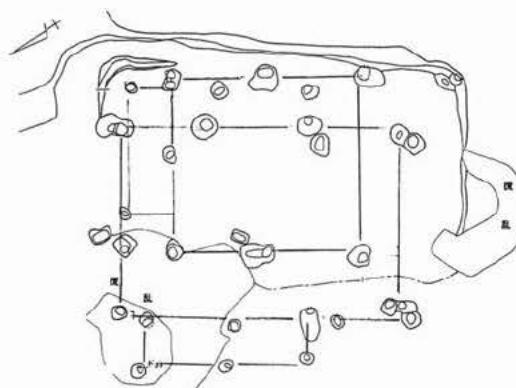
資料No	12	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町		
遺構名	2号段切 挖立柱建物址K9			構築場所	資料No11に同じ					
規模	梁間	3.6 m	桁行	5.5 m	2 × 3間	面積	19.8 m <sup>2</sup>	坪数	6坪	
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	1.6~2.0 m	桁	1.8~2.0 m	主軸方位	N-23°-E		
出土遺物	資料No11に同じ				付属施設	北寄りに炉				
建物の機能	母屋				構築時期	宝永火山灰降下前後				
備考	報告では間柱も数えて4×6間としている。									



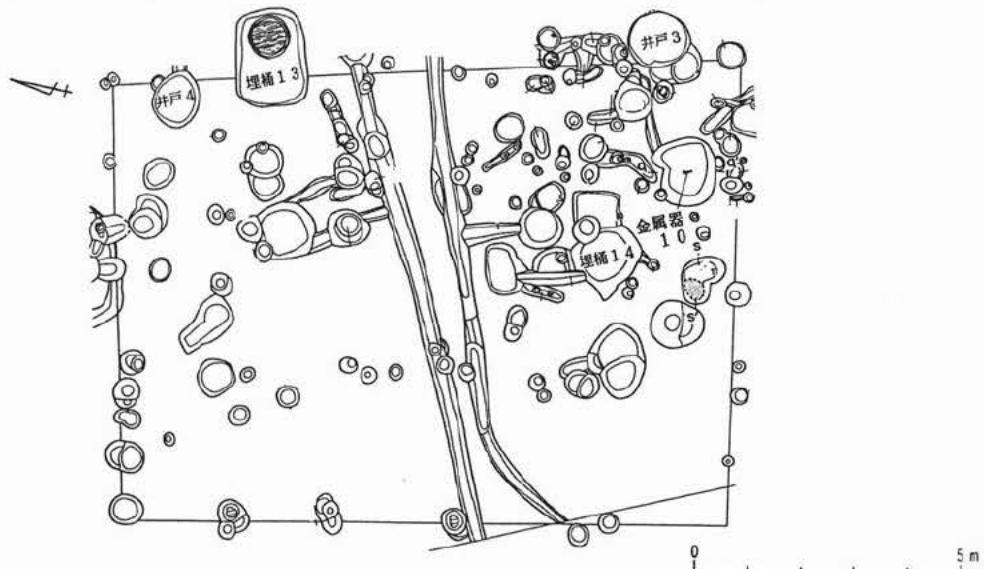
資料No.	13	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町		
遺構名	3号段切 挖立柱建物址K10				構築場所	西向き緩斜面を段切り造成				
規模	梁間	3.2 m	桁行	5.1 m	2 × 3間	面積	16.3 m <sup>2</sup>	坪数	4.9坪	
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	1.6 m	桁	1.5~1.9 m	主軸方位	N-68°-E		
出土遺物	段切りから長石釉皿・砥石				付属施設					
建物の機能	K11との関係から母屋か				構築時期					
備考	報告では4×4間もしくは4×5間(3.2×5.1m)。2×2間からの建替えとみられる。									



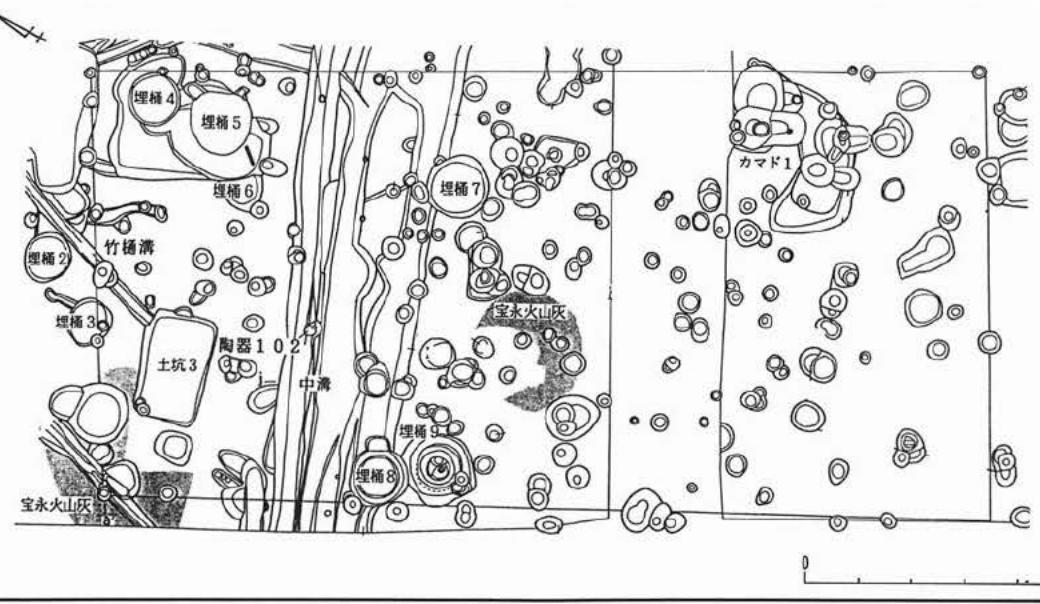
資料No.	14	遺跡名	長津田遺跡群宮之前南遺跡				所在地	横浜市緑区長津田町		
遺構名	3号段切 挖立柱建物址K11				構築場所	資料No13に同じ				
規模	梁間	2.4 m	桁行	3.8 m	1 × 1.5間	面積	9.1 m <sup>2</sup>	坪数	2.8坪	
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	2.4 m	桁	2.5 m	主軸方位	N-32°-E		
出土遺物	資料No13に同じ				付属施設	西面2間に庇				
建物の機能	付属建物				構築時期					
備考	1×1間(2.3×2.6m)北面に庇の建物の建替えと判断。									



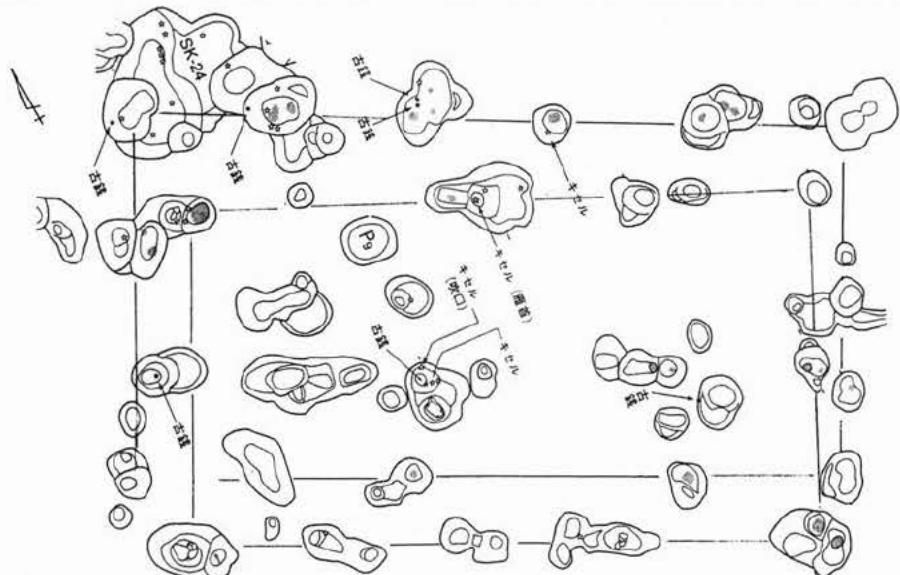
資料No.	15	遺跡名	西ノ谷遺跡					所在地	横浜市港北区南山田町		
遺構名	建物址1			構築場所	西向きの谷戸斜面を大規模に段切り造成						
規模	梁間	8 m	桁行	11.5 m	4 × 5間	面積	92.0 m <sup>2</sup>	坪数	27.9坪		
柱穴の形状	円形	柱間距離	梁	2.0~2.4 m	桁	2.0~2.3 m	主軸方位	N-10°-W			
出土遺物	陶磁器			付属施設	南寄りに焼土						
建物の機能	母屋(名主)			構築時期	17世紀中葉~後葉						
備考	報告では5×5間としている。										



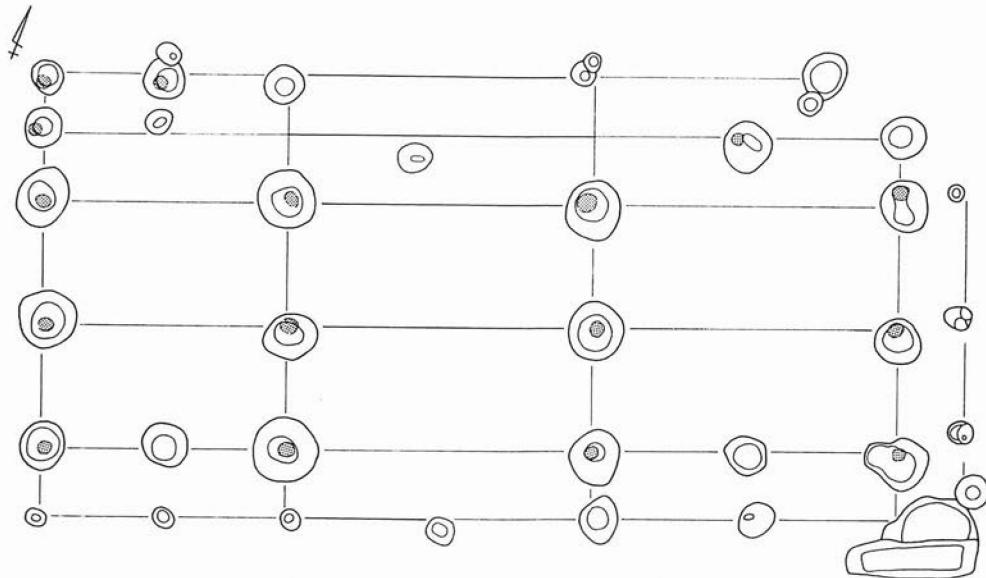
資料No.	16	遺跡名	西ノ谷遺跡					所在地	横浜市港北区南山田町		
遺構名	建物址2			構築場所	資料No15に同じ						
規模	梁間	8 m	桁行	16.5 m	4 × 7間	面積	132 m <sup>2</sup>	坪数	40坪		
柱穴の形状	円形	柱間距離	梁	2.1~2.4 m	桁	2.1 m	主軸方位	N-25°-W			
出土遺物	陶磁器			付属施設							
建物の機能	母屋			構築時期	18世紀前葉~後葉						
備考	報告では建物1を新築したもの。18世紀末からは礎石建物に転換(規模は不明)。										



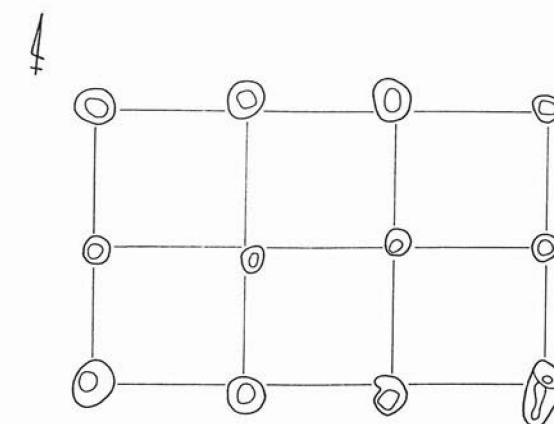
資料No.	17	遺跡名	市ノ沢団地遺跡					所在地	横浜市旭区市沢町									
遺構名	第1号掘立柱建物址			構築場所	西側斜面地を段切り造成													
規模	梁間	4.8 m	桁行	9.5 m	2 × 5 間	面積	44.7 m <sup>2</sup>	坪数	13.5 坪									
柱穴の形状	円形・楕円形	柱間距離	梁	2.4 m	桁	1.8~2.0 m	主軸方位	N-61°-W										
出土遺物	磁器碗・煙管・寛永通宝・簪・砥石			付属施設														
建物の機能	母屋			構築時期	17世紀後半~18世紀													
備考	2×4間(4.5×8.5m)の建替えか。																	



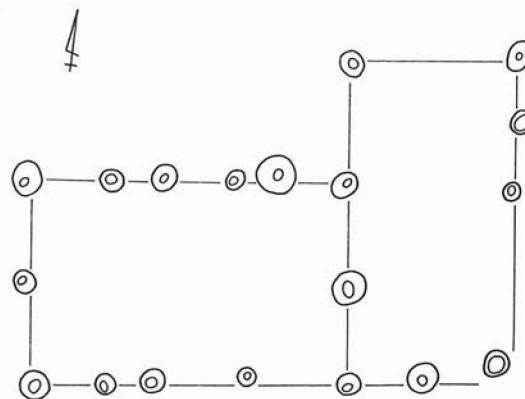
資料No.	19	遺跡名	黒川地区遺跡群宮添遺跡				所在地	川崎市麻生区黒川		
遺構名	1号建物址			構築場所	段切り造成された整地面					
規模	梁間	3.6 m	桁行	12.6 m	2 × 6 間	面積	45.4 m <sup>2</sup>	坪数	13.7 坪	
柱穴の形状	円形・不整形	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8~2.25 m	主軸方位	N-81°-E		
出土遺物				付属施設	上屋の東・南・北面の半間外側に庇					
建物の機能	母屋			構築時期	18世紀頃					
備考	整地面は段切りと溝で区画されている。資料No20・21は関連する一群の建物址と考えられる。									



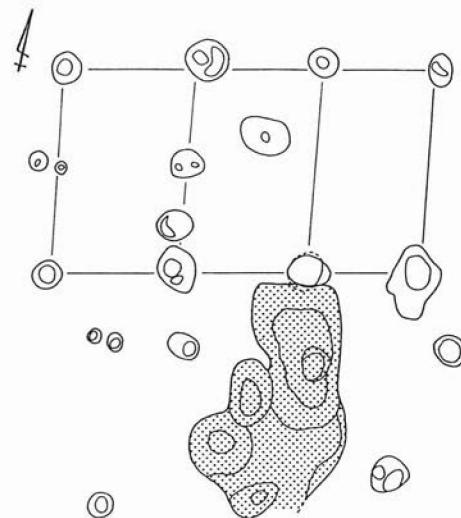
資料No.	20	遺跡名	黒川地区遺跡群宮添遺跡				所在地	川崎市麻生区黒川		
遺構名	2号建物址			構築場所	段切り造成された整地面					
規模	梁間	3.6 m	桁行	6 m	2 × 3 間	面積	21.6 m <sup>2</sup>	坪数	6.5 坪	
柱穴の形状	円形・不整形	柱間距離	梁	1.8 m	桁	2.0 m	主軸方位	N-81°-E		
出土遺物				付属施設						
建物の機能	納屋等の付属施設			構築時期	18世紀頃					
備考	資料No19・21は関連する同一の建物址と考えられる。資料No21と重複。									



資料No.	21	遺跡名	黒川地区遺跡群宮添遺跡				所在地	川崎市麻生区黒川					
遺構名	3号建物址			構築場所	段切り造成された整地面								
規模	梁間	4.3 m	桁行	6.4 m	3 × 5 間	面積	20.8 m <sup>2</sup>	坪数	6.3 坪				
柱穴の形状	円形・不整形	柱間距離	梁	1.3~1.6 m	桁	1.0~1.6 m	主軸方位	N-81°-E					
出土遺物					付属施設								
建物の機能	納屋等の付属施設				構築時期	18世紀頃							
備考	資料No19・20は関連する同一の建物址と考えられる。資料No20と重複。												

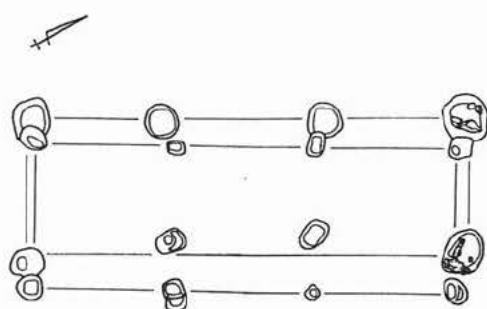


資料No.	22	遺跡名	黒川地区遺跡群宮添遺跡				所在地	川崎市麻生区黒川					
遺構名	4号建物址			構築場所	段切り造成された整地面								
規模	梁間	2.7 m	桁行	4.9 m	2 × 3 間	面積	13.2 m <sup>2</sup>	坪数	4.0 坪				
柱穴の形状	円形・不整形	柱間距離	梁	1.3~1.4 m	桁	1.5~1.7 m	主軸方位	N-85°-E					
出土遺物					付属施設	南側に竈							
建物の機能	作業小屋等の付属施設				構築時期	18世紀頃							
備考	整地面は段切りと溝で区画されている。約 9 m 北側に資料No19~21が存在。												

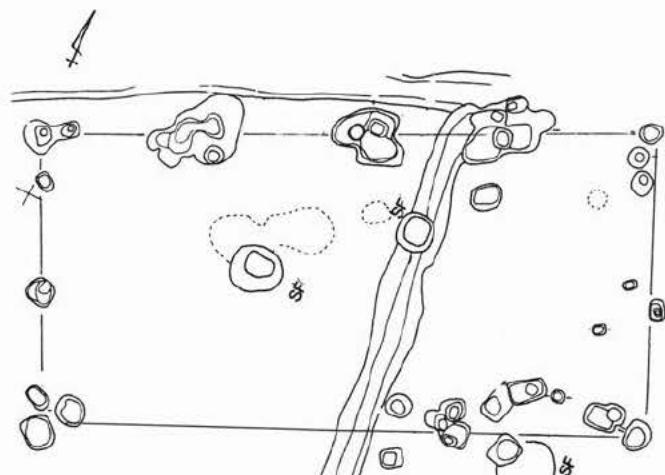


近世民家の集成 (1)

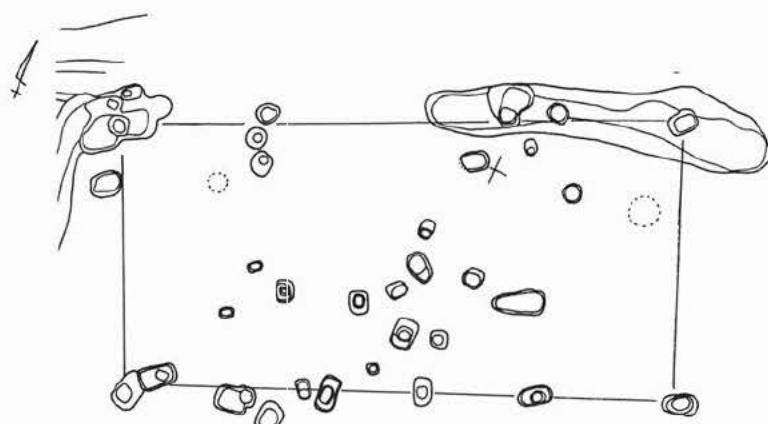
資料No.	23	遺跡名	黒川地区遺跡群No10遺跡					所在地	川崎市麻生区黒川	
遺構名	1号建物址			構築場所	緩斜面を削平して造り出した平坦面					
規模	梁間	1.8 m	桁行	5.9 m	1 × 3 間	面積	10.6 m <sup>2</sup>	坪数	3.2 坪	
柱穴の形状	円形・不整形	柱間距離	梁	1.8~2.2 m	桁	1.8 m	主軸方位	N-18°-E		
出土遺物	(建物周辺から) 陶磁器・砥石・角釘			付属施設	東側に直列する2穴の柱穴列					
建物の機能				構築時期	江戸時代後期~幕末					
備考	1回の建替えが行われている。									



資料No.	24	遺跡名	芝下遺跡					所在地	横須賀市太田和	
遺構名	SB01A			構築場所	丘陵南斜面を段切り造成					
規模	梁間	4.0 m	桁行	8.2 m	2 × 4 間	面積	32.8 m <sup>2</sup>	坪数	9.9 坪	
柱穴の形状	円形	柱間距離	梁	2.0 m	桁	2.0 m	主軸方位	N-64°-E		
出土遺物	志野丸皿・灯明皿			付属施設	中央部に焼土址2					
建物の機能	母屋			構築時期						
備考	報告では3~4回程度の建替えを想定。資料No25より新しい。									



資料No.	25	遺跡名	芝下遺跡					所在地	横須賀市太田和						
遺構名	S B 0 1 B			構築場所	資料No24に同じ										
規模	梁間	3.7 m	桁行	7.5 m	2 × 4 間	面積	27.8 m <sup>2</sup>	坪数	8.4 坪						
柱穴の形状	長方形	柱間距離	梁	1.85 m	桁	1.6~1.9 m	主軸方位	N-66°-E							
出土遺物	肥前磁器碗・瀬戸播鉢			付属施設	東端と西寄りに焼土址										
建物の機能	母屋			構築時期											
備考	資料No24より古い。														



資料No.	26	遺跡名	米町遺跡 大町二丁目391-1					所在地	鎌倉市大町										
遺構名	建物基礎群			構築場所	沖積地														
規模	梁間	3.6 m	桁行	6.3 m	2 × 3.5 間	面積	22.7 m <sup>2</sup>	坪数	7 坪										
柱穴の形状	約50cmの正方形		柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 m	主軸方位	N-80°-E										
出土遺物						付属施設													
建物の機能				構築時期															
備考	確認面より近世と判断されている。																		

